

薬局部会

保険薬局で調剤された糖尿病治療薬の 処方状況に関する調査

- 1富所隆太郎, 1岡嶋正行, 2館下佳奈,
2佐藤多恵子, 2西村貴子, 2木下美佳,
2早勢伸正, 1, 2北村 大, 1, 2北村誠史
(1キタ調剤薬局, 2ポテト調剤薬局)**

第68回北海道薬学大会 利益相反の開示

筆頭演者名： 富所 隆太郎

**私は今回の演題に関連して、
開示すべき利益相反はありません。**

目的

糖尿病患者の処方データを用いて、糖尿病治療薬の処方状況をレトロスペクティブに調査した。調査結果より、DPP-4阻害薬、SGLT2阻害薬およびGLP-1受容体作動薬を含めた糖尿病治療薬の薬効別および薬品別処方頻度の情報を取得し、WHOが推奨する治療指針や本邦の「糖尿病標準診療マニュアル第16版（2020-2021年）」における糖尿病薬物療法の優先順位と比較することを目的とした。

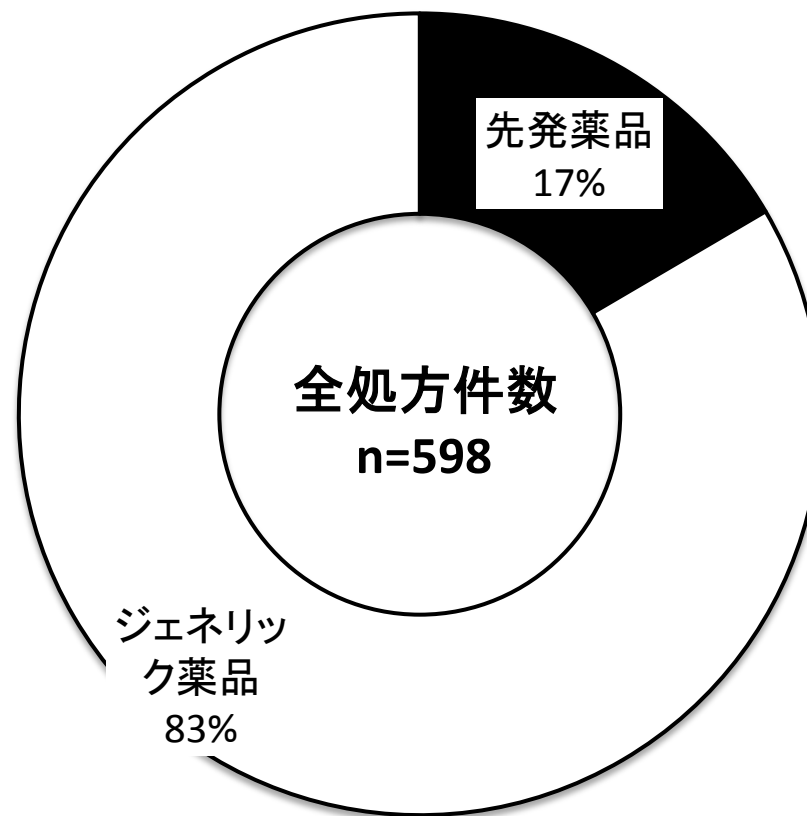
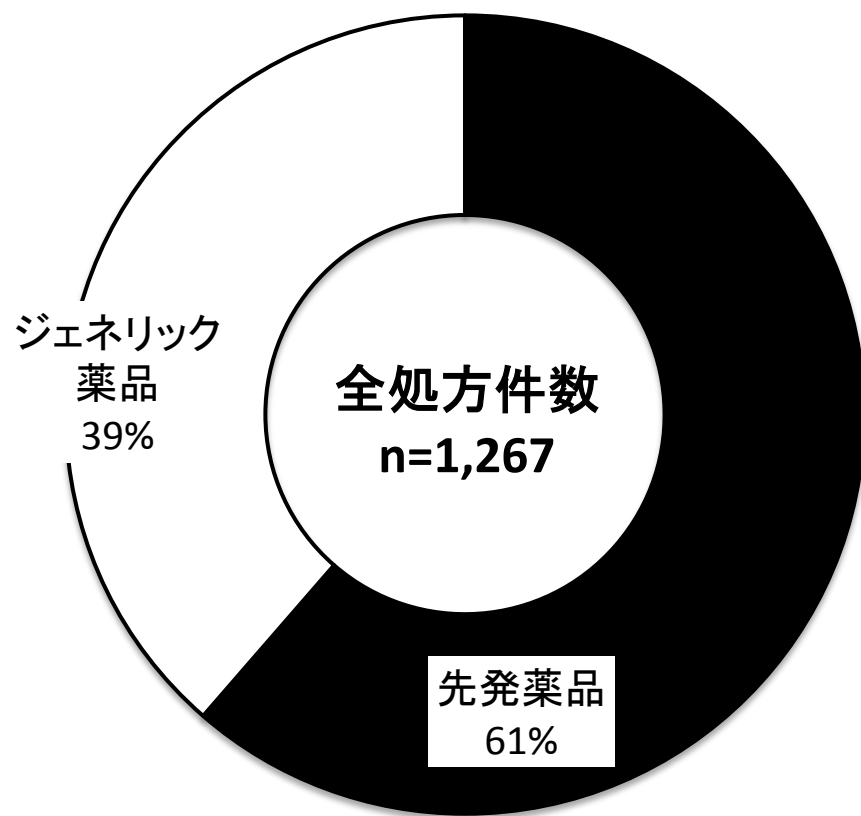
調査方法

- **調査対象期間：2019年8月1日～2020年7月31日の12ヶ月間**
- **糖尿病治療薬を処方された患者の処方せんから糖尿病治療薬の薬品名、患者の年齢・性別情報を抽出し、糖尿病治療薬の薬品別および薬効別にその処方率や処方割合を算出した。また、多剤併用処方の割合ならびに一部の薬品における用量別処方割合について、併せて調査した。**
- **倫理的配慮：北海道薬剤師会臨床・疫学研究倫理審査委員会（承認番号 03-0005）**

処方(患者)特性

1. 対象薬品数：54品目
2. 糖尿病治療薬が処方された処方せん枚数
(解析対象処方せん)：679枚
3. 糖尿病治療薬が処方された件数：1,267件
4. 性別処方割合：男性 50% (338枚),
女性 50% (341枚)
5. 年齢別処方割合：75歳以上 42% (284枚),
65-74歳 34% (234枚),
65歳未満 24% (161枚)

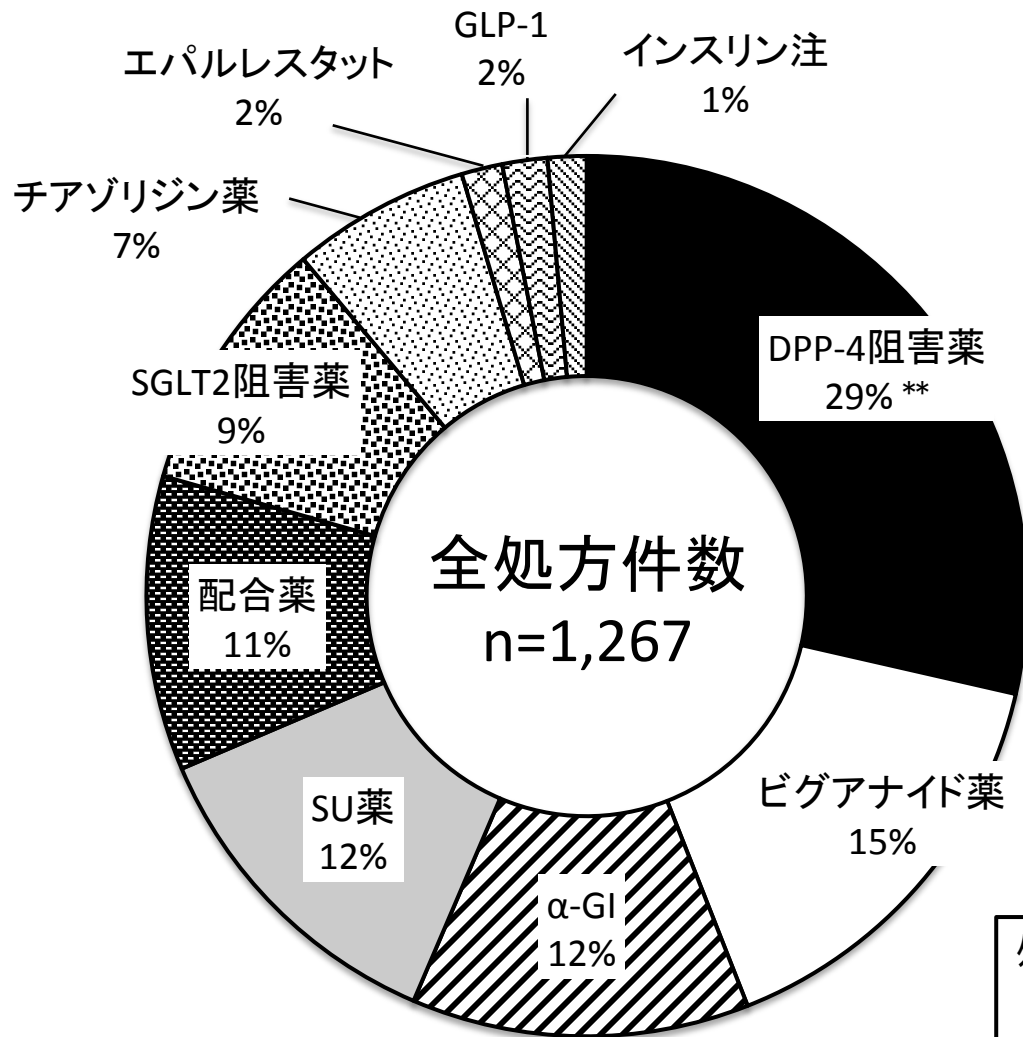
ジェネリック薬品の使用割合



処方割合 (%) = 先発あるいはジェネリック薬品の処方件数 / 先発およびジェネリック薬品の全処方件数

使用割合 (%) = ジェネリック薬品の処方件数 / ジェネリック薬品のある先発薬品の処方件数 + ジェネリック薬品の処方件数 (全処方件数)

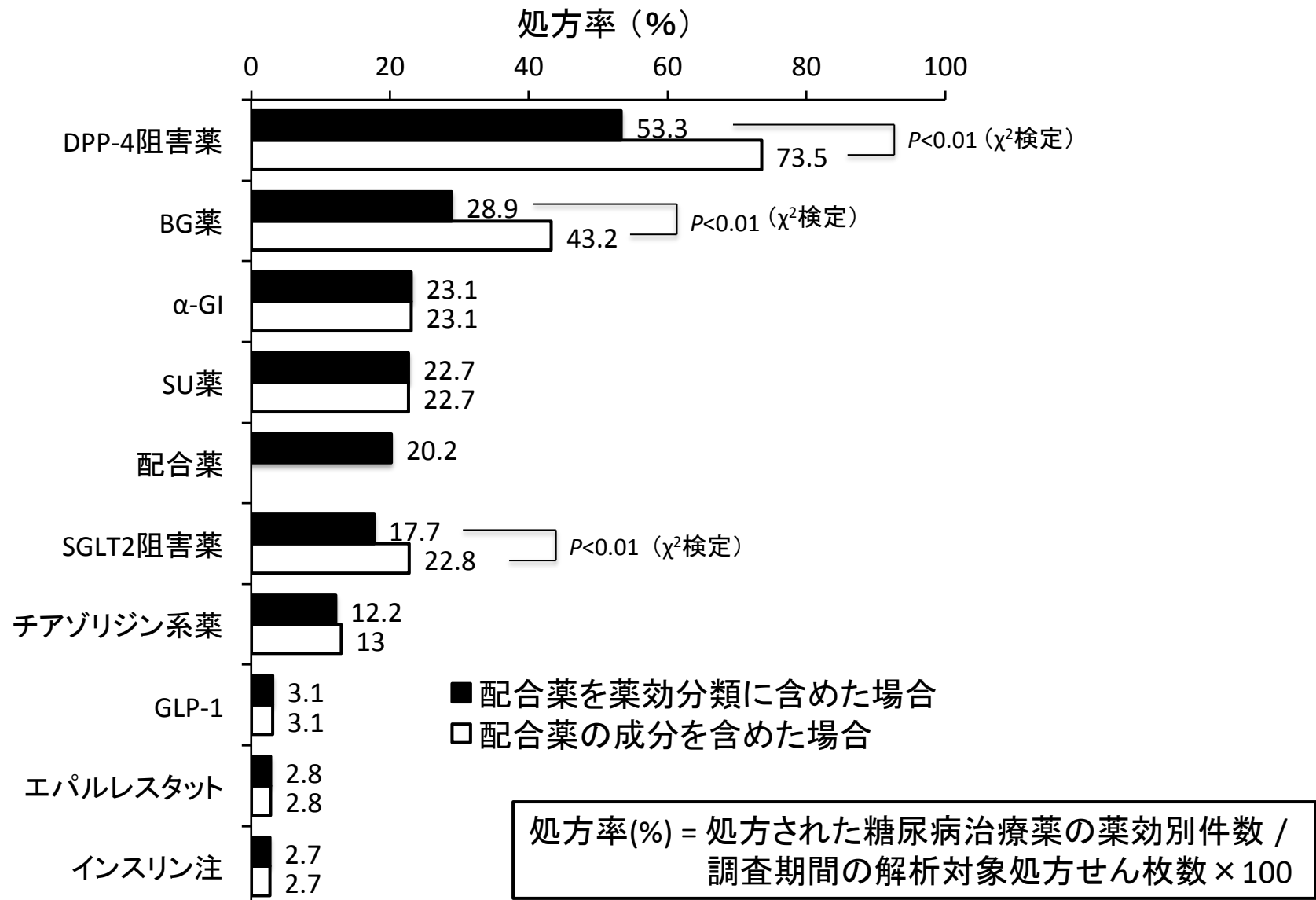
薬効別薬品の処方割合



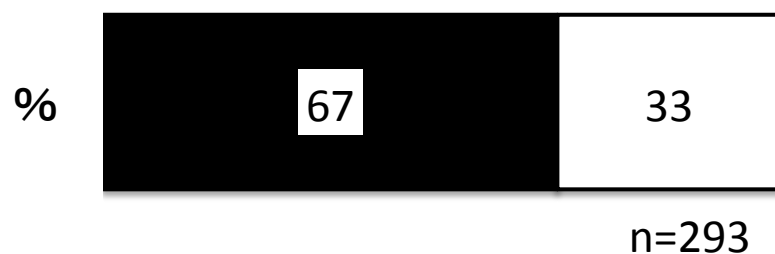
** $P < 0.01$, vs “ビグアナイド薬” (χ^2 検定)

処方割合(%) = 各糖尿病治療薬の薬効別処方件数 / 全糖尿病治療薬の処方件数(全処方件数)

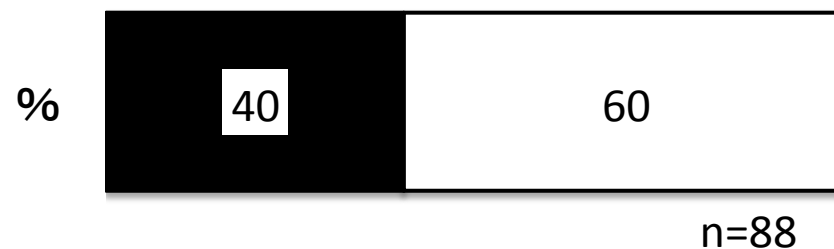
薬効別薬品の処方率



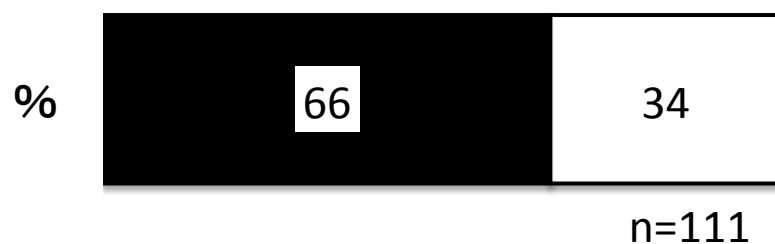
メトホルミン、ピオグリダゾンおよびSU薬の 用量別処方割合



■ メトホルミン塩酸塩500mg
□ メトホルミン塩酸塩250mg



■ ピオグリダゾン錠30mg
□ ピオグリダゾン錠15mg

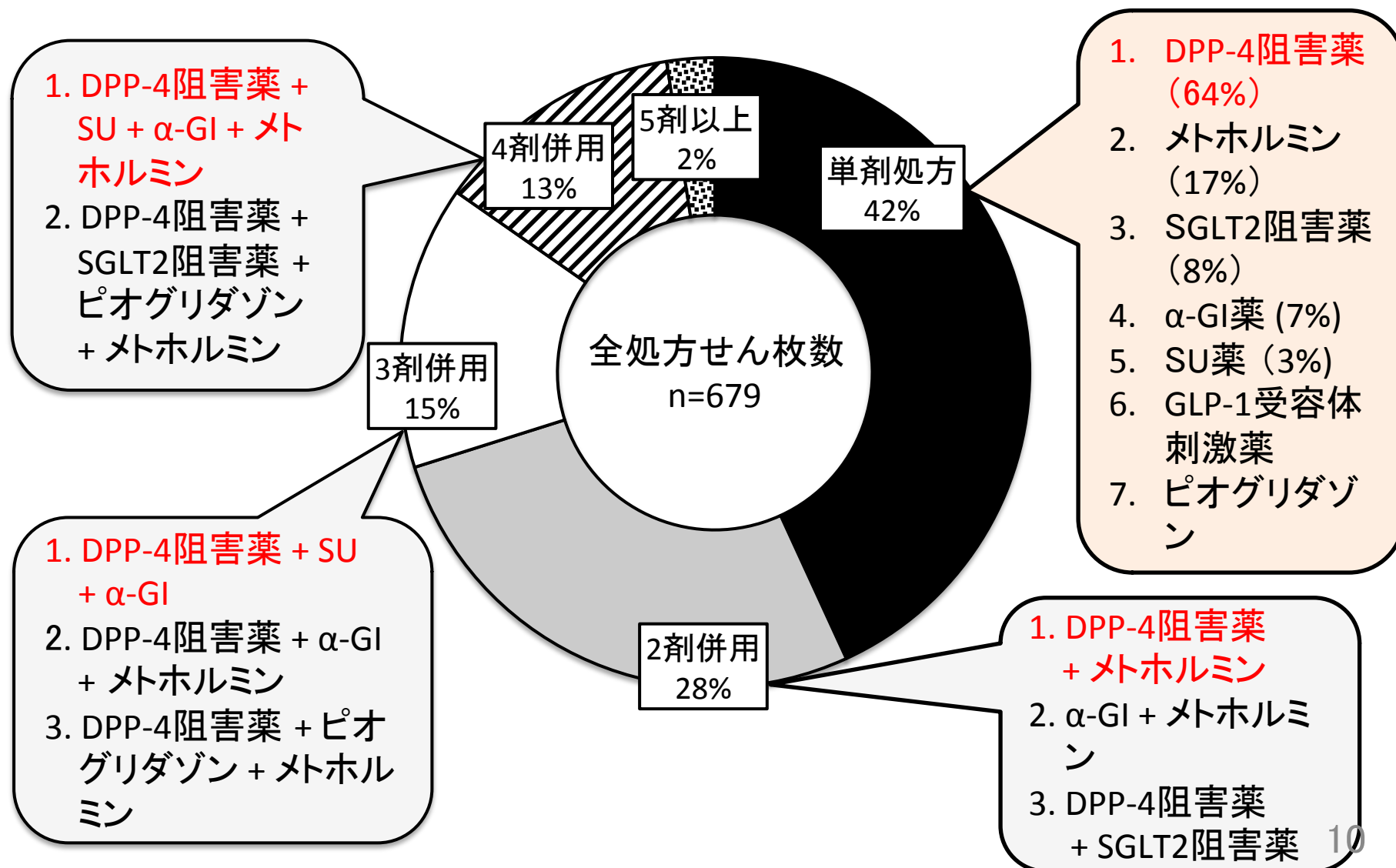


■ グリメピリド1mg
□ グリメピリド0.5mg



■ グリベンクラミド2.5mg
□ グリベンクラミド1.25mg

単剤処方と併用処方の割合



結果&考察

1. 本調査における糖尿病治療薬の処方割合や処方率は、WHOが推奨する治療指針および「糖尿病標準診療マニュアル第16版」における優先順位と異なり、DPP-4阻害薬が最も高かった。
2. ビグアナイド薬のメトホルミンは、処方割合および処方率において2番目に高い値を示したが、DPP-4阻害薬に比べ有意に低かった。
3. 性別・年齢層別に関係なくDPP-4阻害薬の処方率および処方割合が高かったことより、DPP-4阻害薬が処方時の第1選択薬であると考えられる。
4. ジェネリック薬品の処方割合は39%と低かったが、ジェネリック薬品がない先発薬品を計算式から除くと83%の高値を示した。

結果&考察（続き-1）

5. **配合薬の処方率および処方割合が比較的高く、薬効別薬品の処方割合や処方率に大きく影響していると考えられる。**
6. **配合薬の処方率は65歳以上の高齢者では年齢層順に低下することより、高齢者には処方しにくい面があると考えられる。**
7. **メトホルミン、ピオグリダゾンでは低用量の処方割合が高く、またSU薬においても低用量の処方割合が増加しており、低血糖などの副作用防止に注意が向けられていると考えられる。**

結果&考察（続き-2）

8. 単剤処方ではDPP-4阻害薬の処方が圧倒的に多く、2剤以上の併用においても**DPP-4阻害薬と併用する処方が最も多かった。**
9. DPP-4阻害薬が第1選択薬として多く処方されているが、服薬指導時に訴えのある便秘など**消化器症状の副作用に配慮する必要がある。**
10. 処方割合および処方率の高いDPP-4阻害薬に対し、医療経済の面から**ジェネリック薬品の開発が望まれる。**